

# 子どもと映画

## 10月12日月・祝

### 山形美術館1 入場無料

10:00-10:50 子どもと映画：山形

『輪』『Nuts 愛』『エリザベス&武司物語 [2D]』  
『なにげない あい』+メイキング 2015/50分

10:50-Q&A 富樫森監督&ワークショップに参加した子どもたち

- コーヒーブレイク・タイム (山形美術館休憩サロン) -  
※登壇者、観客の方が自由に交流するための時間 です

11:50-13:20 子どもと映画：札幌

『茜色クラリネット』2014/81分

13:20-Q&A 中島洋さん(『茜色クラリネット』プロデューサー)

- コーヒーブレイク・タイム (山形美術館休憩サロン) -

14:20-15:00 子どもと映画：子ども映画教室

『時を感じたぼく達』(金沢) 2015/11分

『早大通りで立ち上がる』(早稲田) 2014/6分

『不思議の森 ~夢見てた場所を目指して~』(横浜) 2015/11分

15:00-Q&A 前田哲監督、土肥悦子さん(子ども映画教室代表)

- コーヒーブレイク・タイム (山形美術館休憩サロン) -

16:10-18:10 シンポジウム：子どもと映画

参加者：齋藤寿子さん(小学校教諭)、諏訪敦彦さん(映画監督)(予定)、  
富樫森さん、中島洋さん、長澤純さん(映画館フォーラム番組編成担当)、  
前田哲さん ほか 司会：土肥悦子さん



©子どもと映画プロジェクト

## 山形で初めて「子どもと映画」についての上映会とシンポジウムが開催されます!!!

子どもが映画をつくる時、子どもたちの心の中で何が起きているのでしょうか。

見知らぬ仲間と映画をつくる時、いくつもの正解のない課題をみんなで乗り越えていきます。たったの数日で初めて会った子どもたちは離れがたいチームになります。仲間と問題を解決し、最後にできあがった映画を上映するとき、子どもたちの瞳はキラキラとかがやきます。



©CMC



©CMC

子どもがカメラやマイクをかかえて、街に繰り出すとき、そこには何が起きているのでしょうか。大人は手出し口出しをしません。ドキュメンタリーでお店に取材に行くときも、大人たちはお店の外で待っています。フィクションでお話をつくるのも、子どもたちが考えます。大人は見守るだけです。そうして、ドキドキしながら、自分の力で街の人と言葉を交わし、ときには叱られ、ときには褒められて、頬を紅潮させて意気揚々とスタッフのもとにもどってきます。街の人たちは子どもたちの真剣な面持ちに、真摯に応えてくださいます。ご自分の話、ご家族の話、街の話をしてください。上映会に顔をだしてください。

子どもがプロの映画監督や映画スタッフと出会うとき、子どもたちはその真剣な顔つき、機材を扱うときの身振り、映画を熱く語る言葉、そのすべてを見えています。すべての言葉を理解できなくても、自分たちに本気で向き合う大人を見えています。映画の熱が伝わる瞬間です。



©CMC

子どもたちが町中にカメラを持って繰り出して、彼らの興味の赴くまま映画を作ること、巻き起こるのは、学びであり、映画を知ることであり、街とつながることだと思います。

子どもと映画と街と人が有機的につながり、感動の波が伝わっていく、その感じを、この上映会とシンポジウムを通して、多くの人々に、そして映画だけでなく、教育やまちのひとたちなど、各分野の人に知ってもらいたいと思います。(文責：土肥)

助成：財団法人山形県生涯学習文化財団（平成27年度 YAMAGATA アートサポート事業）  
 協力：NPO 法人北海道コミュニティシネマ・札幌、こども映画教室

**こどもと映画：山形 10:00-**

『輪』『Nuts 愛』『エリザベス&武司物語 [2D]』  
 『なにげない あい』+メイキング 2015/50分

講師の富樫森監督が示したテーマは「愛」。異年齢の子どもたちが編成された4つの班が、山形市内を縦横無尽に駆け巡り、そしてちょっと寄り道しながら描き出したそれぞれの「愛」。冒険、ファンタジー、恋愛、ホームドラマ、ダンス、即興音楽。愛とは勢いなのかかもしれない。



**みんなで作る こども映画制作ワークショップ**

2015年3月7日～8日/東北芸術工科大学

講師：富樫森 主催：こどもと映画プロジェクト実行委員会

やっと雪が解けたばかりの3月の山形。初めての映画づくりに取り組んだのは小学1年生から高校2年生までの32人。「はじめまして」の挨拶から企画、取材、撮影、演技指導、録音、編集、そして上映まで、

たったの2日間。しかし、こどもも大人も初めてのことだらけの濃密な2日間だった。

**こどもと映画：札幌 11:50-**  
 『茜色クラリネット』

2014/81分/英語字幕つき/配給：シアターキノ

未来を選択しなければならない季節。その先には「大人」という存在がいる。大人たちへの不信感、大人になることへの不安、大人でも子どもでもない中間の「いま」だからこそ伝えられるものは何か、坂本監督率いる中高生たちが創り出す等身大の成長ファンタジー。



**コトニ夢映画制作プロジェクト** 2012年10月～2014年2月/札幌市西区琴似地域

講師8名、撮影時の大人スタッフ約30名 主催：NPO 法人北海道コミュニティシネマ・札幌  
 札幌で6年間続く中学生の短編映画制作ワークショップの集大成として、北海道コミュニティシネマ・札幌と琴似地域のコミュニティがプロジェクト実行委員会を結成、助成金や企業協賛、市民サポーター（約400人）などにより制作費600万を集めて制作した本作。監督は、2年間ワークショップを経験し、中学3年で書いた脚本が評価された高校1年生の坂本優乃。中高生20名とプロの大人約30名に、400名を超える地域応援団で完成させた。

**シンポジウム  
 こどもと映画**

16:10-

こどもと映画を考えることは、こどもと映画の関わりだけでなく、「こどもと教育」や、「映画とまちづくり」を考えることでもある。本シンポジウムは、映画ワークショップの企画者、経験者だけでなく、さまざまなバックグラウンドを持つ人々にとっての学びの場としたい。

**こどもと映画：こども映画教室 14:20-**



『時を感じたぼく達』 2015/11分

前田監督が与えたテーマは「時間」。時間ってなんだろう？ 時間って見える？ 時間が足りないとかいうけど、測れる？ 時間についてみんなで考えた後、ドキュメンタリーとフィクションに分かれ作品が作られた。

**こども映画教室 2014年度中等クラス**

2015年3月26日～28日/金沢21世紀美術館およびその周辺

講師：前田哲 主催：こども映画教室



『早大通りで立ち上がる』 2014/6分

是枝監督が与えたテーマは「？」。早稲田の街に繰り出し、疑問に思ふ題材を探し、それを探求する。このチームは、2日目の夕方まで題材が見つからず街をさまよったが、



最後、早大通りに並ぶ赤ん坊の銅像群を見つけ、その存在について調査する。締め切りが迫り爆発的なエネルギーで撮り切ったドキュメンタリーの傑作。

**こども映画教室@早稲田エンパク2014**

2014年11月22日～24日/早稲田大学およびその周辺

講師：是枝裕和 主催：早稲田大学演劇博物館「こども映画教室@早稲田エンパク2014」

『不思議の森～夢見てた場所を目指して～』

2015/11分

丘の上の展望台を目指していた4人のこどもたちが不思議な森の中で眠りにおち、目覚めると4人はバラバラになっている。互いに互いを探しながら森を迷い…。こどもたちの真剣な演技と、こどもたちの動きに導かれるカメラの動きが、リリカルでナラティブに頼らない驚くべき傑作。音楽もオリジナルで、すべてこどもたちの発案。



**こども映画教室@ヨコハマ2015** 2015年7月24日～26日/東京藝術大学

講師：諏訪敦彦 主催：こども映画教室「こども映画教室@ヨコハマ2015」



「こども映画教室」は、小学生を対象として、映画鑑賞、制作、視覚玩具制作など、映画に関するワークショップを全国で開催している。こども映画教室の理念は、大人は手出し口出ししないでこどもの自主性を尊重すること、一流の映画人とこどもを会わせること。3日間でお話づくり、撮影、編集、上映までをすべてこどもたちが協力して行う。これまで中江裕司、是枝裕和、萩生田宏治、諏訪敦彦、河瀬直美、富樫森、鈴木卓爾、前田哲、横浜聡子、砂田麻美といった監督たちを講師に迎えた。